

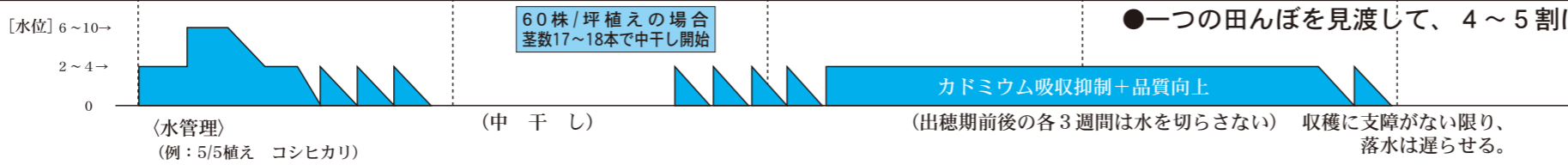
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	特性と栽培上の注意
コシヒカリ	5/2 5/5 田植え	5/2 5/5 田植え	6/5~10 中干し開始日を書き出します	7/9 7/16~19 7/27 出穂期	8/28 収穫期	約32日		・倒伏しやすい ・いもち病に弱い ・穂発芽はしにくい ・食味は良好
キヌヒカリ	5/2 5/5 田植え	5/2 5/5 田植え	6/5~10 中干し開始日を書き出します	7/3 7/10~13 7/28 出穂期	8/29 収穫期	約32日		・分げつの発生が少ない ・倒伏はしにくい ・いもち病、白葉枯病に弱い ・穂発芽しやすい ・乳白、腹白がやすい
日本晴	5/2 5/5 田植え	5/2 5/5 田植え	6/20~25 中干し開始日を書き出します	7/12~14 7/23~25 出穂期	8/6 8/12 8/19 8/26 8/31 9/7 9/14 9/21 9/28 9/30 収穫期	約35日		・倒伏には比較的強い ・こま葉枯病に弱い ・多肥・密植すると登熟が劣る
秋の詩	5/2 5/5 田植え	5/2 5/5 田植え	6/20~25 中干し開始日を書き出します	7/16~18 7/23~25 出穂期	8/8 8/15 8/22 8/29 9/5 9/12 9/19 9/26 9/30 収穫期	約35日		・倒伏はやや弱い ・いもち病に弱い ・穂発芽はしにくい ・大粒で日本晴よりも食味は良い
滋賀羽二重糯	5/2 5/5 田植え	5/2 5/5 田植え	6/20~25 中干し開始日を書き出します	7/25 8/1 8/8 8/15 8/22 8/29 9/5 9/12 9/19 9/26 9/30 収穫期	約42日			・倒伏しやすい ・いもち病に弱い ・穂発芽は特にしやすい

土づくり資材の散布

資材に含まれるアルカリ分は、有害なカドミウムから、稲を守ってくれます。また、稲の生育には、ケイ酸と鉄が重要です。

品名	施用量	成分
粒状とれ太郎	80kg/10a	ケイ酸30% アルカリ分40%
濃縮堆肥	100kg/10a	窒素1.9% リン酸2.1%
粒状石炭	40kg/10a	有効な微生物(FN21)を使用
石灰窒素	20kg/10a	窒素20% アルカリ分55%

疎植(坪当たり50~60株)と細植え(二株当たり3本)の励行!!



※品質向上のため、生育に応じた施肥や肥効調節型肥料の利用により、茎数の過剰分げつを抑え、適正な穂数の確保に努めましょう。
※胴割れしやすい品種(秋の詩、滋賀羽二重糯)については、早期落水は絶対しない!!
○肥料・農薬は、JAマークの付いた資材をお勧めします!

水稲施肥設計 ①(基肥・追肥・穂肥の施肥タイプ)

栽培品種	総量	基肥	追肥	穂肥			施肥成分			摘 要
				(I)	(II)		N	P	K	
コシヒカリ	60	15	15	15	15	8.4	4.8	6.0	1. 肥料はPKセーブエコ(14-8-10) 2. 穂肥(I)はカラススケール3.5以下で施用	3. 株張り、標準20本/株 4. 出穂期予想、7月27日
キヌヒカリ	70	20	10	20	20	9.8	5.6	7.0	1. 肥料はPKセーブエコ(14-8-10) 2. 転作跡地は基肥施用量を減らし、過繁茂にならないように注意	3. 穂肥(I)はカラススケール4.0以下で施用 4. 出穂期予想、7月28日
日本晴	70	20	20	30	-	9.8	5.6	7.0	1. 肥料はPKセーブエコ(14-8-10) 2. 穂肥(I)はカラススケール4.0以下で施用 3. 出穂期予想、8月6日	
秋の詩	60	15	10	20	15	8.4	4.8	6.0	1. 肥料はPKセーブエコ(14-8-10) 2. 穂肥(I)はカラススケール3.5以下で施用 3. 出穂期予想、8月8日	
滋賀羽二重糯	55	15	10	15	15	7.7	4.4	5.5	1. 肥料はPKセーブエコ(14-8-10) 2. 穂肥(I)はカラススケール3.5以下で施用 3. 出穂期予想、8月12日	

※大豆跡、野菜跡ほ場では基肥は無肥料~半量以下に調節する。
※全品種、ケイ酸加里を基肥又は追肥時に施用(40kg/10a)することで、倒伏軽減効果があると共に、稲の受光体勢が良くなり登熟歩高が高くなります。

防除基準(使用時期)

春期耕起前	移植時	移植直後	移植後					ノビエ					水田刈跡
			1日	3日	5日	7日	15日	20日	25日	30日	50日	55日	
パスタ剤(春期耕起前) 30~15日 300~500mlを水100~150ℓ/10aに希釈、またはラウンドアップマックスロード(通常散布) 200~500mlを水50~100ℓ/10aに希釈(少量散布) 200~500mlを水25~50ℓ/10aに希釈	初期	キルクサ1キロ粒剤											ラウンドアップマックスロード 200~1000mlを水50~100ℓ/10aに希釈(通常散布) 200~500mlを水25~50ℓ/10aに希釈(少量散布)
	中期	ピラクロフロアブル											
	中期	バデホープ1キロ粒剤・草笛ジャンボ											
	中期		サンパンチ1キロ粒剤(※収穫60日前まで)										
	中期		アトトリ1キロ粒剤(※収穫45日前まで)										
	中期		ザーブックスSM粒剤										
	中期		バサグラン粒剤(※収穫60日前まで)										
	中期		ワイドパワー粒剤(※収穫60日前まで)										
	中期		ヒエクリン豆つぶ250(※収穫45日前まで)										
	中期		クリンチャー1キロ粒剤(※収穫30日前まで)										
一回処理		アツパレZ1キロ粒剤(※移植後30日まで)											
一回処理		アツパレZジャンボ・フロアブル(※移植後30日まで)											
一回処理		エワン1キロ粒剤・ジャンボ・フロアブル(※移植後30日まで)											
一回処理		ミスターホームラン1キロ粒剤(※移植後30日まで)											

※農薬のラベル使用時期の欄に移植時と記載されているものは、田植え同時散布機で使用することができます。移植直後からと記載されているものは、田植えが終わってから使用して下さい。
※移植時、「移植直後」の表記は薬剤ラベルを十分注意して使用して下さい。

②基肥一回(作業省力)タイプ

基肥、追肥、穂肥を基肥1回施肥にすることができます。品種によっては使用する肥料が早生用と中晩生用に分かれますので、品種に合った肥料をお使いください。

●楽しんで君 早生用・中晩生用 (成分:N-20 P-10 K-12)

品 種	使用肥料名	施用量(kg)	
		側条施肥	全面全層施肥
コシヒカリ	楽しんで君(早生用)	35	40
キヌヒカリ	楽しんで君(早生用)	40	45
日本晴	楽しんで君(中晩生用)	40	45
秋の詩	楽しんで君(中晩生用)	40	45
滋賀羽二重糯	楽しんで君(中晩生用)	35	40

●使用上の注意

- ①全面全層施用する場合には、**土壌と混和してから** 入水し、代かきをするようにしてください。
- ②生育期間の気温が高温で推移すると、後半に肥切れし穂肥が必要な場合があります。その場合は、PKセーブを適時使用下さい。
- ③過激な衝撃や摩擦によって、被覆肥料の被膜が一部損傷し、溶出が早まる場合があります。
- ④肥料成分溶出後、光や微生物などの影響を受け、徐々に崩壊、分解していきます。田面水上に殻が浮上することがありますが、ほ場の外へ流出させないようにしてください。

★疎植・細植えを実践しよう

・疎植(坪当たり50株目標)と細植え(1株当たり3本程度)の実践

栗東米品質向上のポイント

★土づくり資材の投入で強い稲を作ろう

- ・とれ太郎 80kg/10a (土づくり資材の投入はカドミウム吸収抑制対策にもつながります)
- ・深耕 根の伸長を広げるとともに、土に保肥力を向上させ、根の動きを高める(15cm以上)

★適正な施肥管理

- ・過繁茂にならないように基肥、追肥は適正に施用しましょう
- ・穂肥は幼穂を確認してから施用しましょう
- ・実肥は食味を下げるので施用しない

★水管理の徹底

- ・適期中干し(茎数15~16本)により分げつを抑制しましょう

★いもち病対策

いもち病は、発生初期の早期防除が重要となるため、育苗箱処理剤または、本田施用剤(粒剤)で事前に防除しましょう!

農薬名	移 植 期		本 田	
	コラトップ粒剤5	フジワン粒剤		
適用病害虫名	いもち病	葉いもち	穂いもち	歩合向上
使用時期	移植前3日~移植当日	葉いもち 初発10日前~初発時 穂いもち 出穂30日前~5日前まで	葉いもち 初発7~10日前 穂いもち 出穂10~30日前 但し収穫30日前まで	出穂10~20日前 但し収穫30日前まで
使用量	1箱当り50g	3~4kg/10a	3~5kg/10a	4kg/10kg
使用回数	1回	2回以内	2回	2回
使用方法	育苗箱の苗の上から均一に散布する	散布	湛水散布	湛水散布

★カメムシ防除

- ・出穂期に合わせた効果的な薬剤防除を行いましょう
- ・出穂前後6週間は本田にカメムシ類を寄せ付けないように
- ①出穂2~3週間前と出穂期の2回の草刈り
- ②水田内や畦畔にイネ科雑草の穂を出させない
- ③地域で話し合い一斉に行う
- 3つのポイントを重点的に行いましょう

★適期収穫

刈り遅れは胴割米などの品質低下につながるため適期に収穫しましょう(穂の元に帯緑率が10~15%残っているとき)

★GAPの実践

農業生産・流通場面において、より一層安全・安心を確保するための具体的な取り組みとしてGAP(Good [良] Agricultural [農業の] Practice [実践])を行うことが求められています。
GAPとは、農産物生産の準備から出荷に至る全ての作業内容を見つめ直しリスク(危害や事故が起きる恐れ)があれば、それを回避するための対策(改善)を立てて実践することです。

こまめな水管理で 白未熟粒・胴割粒を減らす
品質・収量向上!

稲作ごよみに記載する農業使用時の注意事項

- ①この資料に記載された農薬は、平成28年11月30日時点での登録内容です。農薬の使用にあたっては必ず、手持ちの農薬の容器のラベルを確認してください。
- ②農薬の使用に関して不明な場合、農業メーカーや指導機関へ問い合わせ、確認してください。
- ③農薬取締法が改正され、無登録農薬や使用禁止農薬を使用した場合は違反になります。また、農薬の使用方法を誤って使った場合も違反になることがあります。